

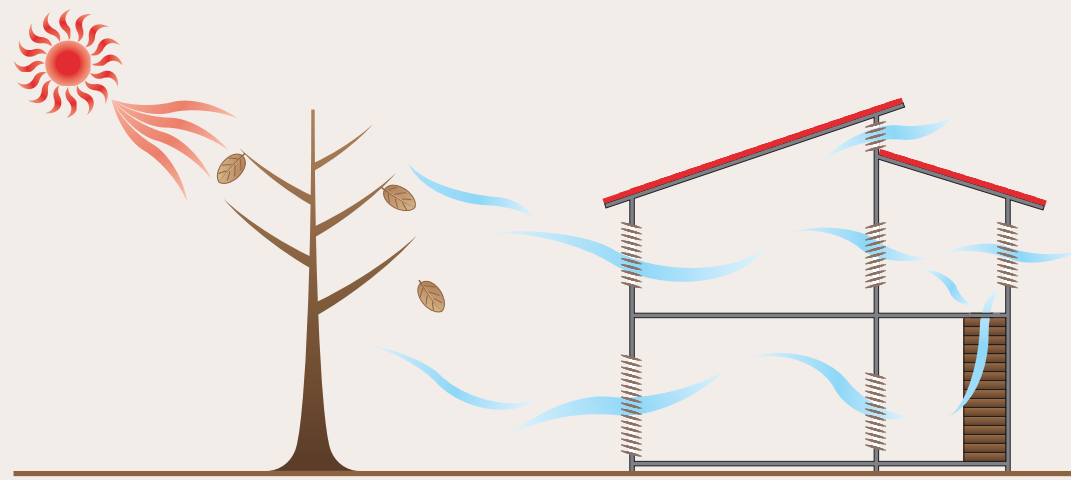
ウッドシャッターがもたらす自然の空調

ウッドシャッターは、自然エネルギーを冷暖房に利用するパッシブデザインにも役立ちます。

冬：羽根を開くことで、太陽の光が部屋の奥まで差し込み、部屋を暖めます。羽根を閉じれば内窓として冷気を遮断する効果もあります。

夏：羽根の調節で視覚的なプライバシーを確保しながら、窓をあけ外の風を採り込めます。日差しの強い時は羽根を閉じて日射を遮ります。

パーティション：部屋と部屋の間にウッドシャッターのパーティションを設ければ、部屋同士の通風を通したり、遮断したりできます。使っていない部屋の羽根を閉じれば省エネになり、羽根を開ければ家全体に風が行き渡ります。



Lounge Talk



設計事務所
インテリア担当
Aさん

Aさん ウッドシャッターというと日本ではあまり馴染みがありませんが、どのような所で使われていますか？

武田 欧米では古くから、コロニアル様式の邸宅や都市部のアパートマン、南国のリゾートホテルに使われてきました。木枠に取り付けた木製の羽根(ルーバー)によって、光や風を通しながら雨を遮り、プライバシーを守り、防犯性を確保する役割があります。日本では「鰐戸」とも呼ばれ、古い洋館や木造の教会などによく見られる洋風の雨戸とお考えください。

近年になると屋内でも使われるようになり、ブラインドと同じく羽根を可動できるようになりました。現在、欧米では高級なオーダー品からDIYの安価なものまで、様々な製品が一般家庭で使われています。ナニック製品は米国製のウッドシャッターをもとに、日本のライフスタイルに合わせた改良を施し、国内で製作されています。

Aさん ブラインドとの違いは何でしょう。機能的なメリットも教えてください。

ウッドシャッターって、日本ではあまり馴染みがありません ……

武田 ひとことで言うと、ウッドシャッターは建具枠にブラインドをはめ込んだものです。ブラインドの羽根は枠に固定されていないため、風に当たるとバタつきますが、ウッドシャッターの羽根は建具枠に取り付けられているので、風が吹いてもバタバタせず、羽根の向きも繊細にコントロールできます。通常の建具は開閉することで風や光を採り入れますが、日本建築には古来から、雪見障子や無双窓など、建具を閉めたまま景色や通風をコントロールする建具がありました。ウッドシャッターもそれらと同じく、建具を閉めたまま防犯性やプライバシーを守り、羽根を動かすだけで自然の風や光、景色の見え方を細かくコントロールできるのが特徴です。

Aさん どのような場所に使われることが多いですか。

武田 ひとつはブラインドのように、サッシの内側に取り付けケースで、開戸、引戸、折戸をお選び頂けます。サッシの内側に障子を設けることもあります。ウッドシャッターは扉を閉めたままでも羽根の動きによって光を調節でき、縦型ルーバーにすれば和の雰囲気も演出できます。寝室では季節に合わせた柔らかな光でお目覚め頂けますし、閉じれば夏の直射日光を遮りエアコンの効率を上げられます。次に室内ドアとして使うケースで、玄関の土間と室内を仕切るドアに使われること

が多いですね。ドアを閉めたまま通風を確保し、玄関から入った風を室内に導き、室内の空気を外に逃します。部屋を間仕切るパーティションとしても優れています。これには引戸や折戸が適していて、羽根の開閉によって隣室の見え方をコントロールしたり、空間の広がり感をだしたり、かすかに人気を感じながら視界は遮るといった調節も可能です。またクローゼットの扉として利用し、クローゼット内部の風通しを確保するケースもあります。

Aさん サイズや色などは自由に注文できますか？

武田 ナニックジャパンのウッドシャッターは約25年前、米国製の輸入販売からスタートしましたが、デザインや強度、精度を日本のニーズに合わせるため、2003年から埼玉県戸田市の自社工場で作しています。ご注文のサイズに合わせ1点ずつ製作しているため、建具のタイプや羽根の幅・形状・向き(横型、縦型)、色などを全て選べます。特に羽根の開閉については、独自の駆動機構RP26(Patented)を開発し、指先で直接羽根を動かすだけで全ての羽根が連動するという、ナニックだけのスムーズな機構を実現しました。

Aさん 羽根の幅によって機能は異なるのでしょうか。

武田 最も異なるのは、ウッドシャッターの見た目と景色の見え方です。羽根を開いた時に、幅の広い羽根の

方が羽根と羽根の間隔があり開放的に見えます。一方、縦型ルーバーで和の雰囲気を出したいときは幅の狭い方がいいでしょう。空間とのバランスで言うと、羽根が広い方が大きな空間や建具に適します。幅の狭いフラットな羽根は引戸の建具枠に収まるため、羽根を開けたままでも引戸を開閉できます。このように、羽根の縦・横、幅、色を変えることで、和風、洋風、シンプル、デコラティブ、トラッド、モダンなどあらゆるデザインテイストにマッチします。

Aさん 他社製品との違いを教えてください。

武田 まずは品質の高さです。埼玉県戸田市の自社工場、羽根や建具枠の製作から組み立て、塗装などを一貫して行っていますので、世界最高レベルの品質を誇ります。次に羽根の開閉のスムーズさでしょう。また日本の建物に合わせ、建具枠の強度や納まりにも改良を重ねてきました。取り付けたい場所や開口寸法をお伝え頂ければ、納まりをご提案いたしますので、お気軽にご相談ください。



ナニック営業部
武田

Nanik
Fine Furniture For Windows

ナニックジャパン株式会社

本社：東京都渋谷区恵比寿西1-34-28 代官山ファースト2F
TEL:03-3496-0729 / FAX:03-3496-0400
Email:office@nanik.co.jp HP:https://www.nanik.co.jp
戸田工場 埼玉県戸田市氷川町3-11-20

2019年5月7日(予定)、新ショールームに移転します。
本社ショールーム 東京都渋谷区初台2-31-4
TEL:03-3370-0729 FAX:03-3370-0006



お問い合わせ・お求めは

Wood LOUVERS

Vol.2
SPRING 2019

春の光と風を感じる「ウッドシャッター」の魅力

扉を閉める、開けるにつづく第3の選択「ウッドシャッター」。
扉を閉めたまま、羽根の動きだけで 風や光を採り入れます。

「ナニック」は木製可動ルーバーに特化した
ものづくり企業です

Nanik
Fine Furniture For Windows
～窓辺の上質な家具～

Wood Shutters



縦ルーバータイプ

横ルーバータイプ

ウッドシャター（可動ルーバー建具）

羽根（ルーバー）は縦と横の2タイプ

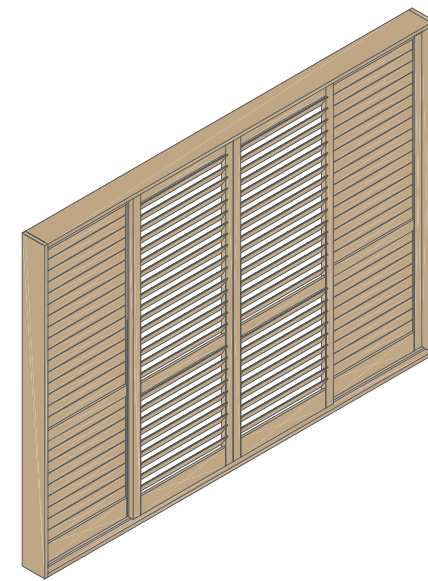


和室と洋室をゆるやかに間仕切る、引戸タイプ「ウッドシャター」。羽根を閉じればプライバシーを確保、引戸を開けば部屋を繋げられます。千本格子のような縦ルーバーが、和のテイストを感じさせます。



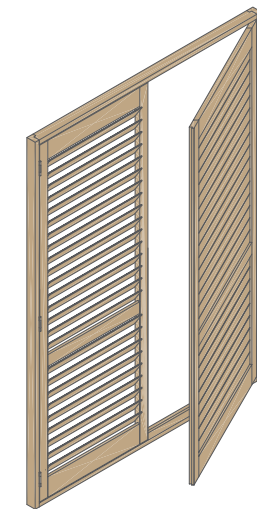
廊下と居室を仕切るドアタイプの「ウッドシャター」。廊下から入る風を室内に採りこめます。冬場は羽根を閉めて、廊下からの冷気を防ぎます。

ナニックの「ウッドシャター」は、さまざまな開き方を選べます



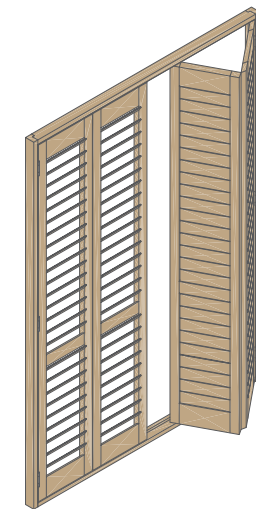
引戸タイプ

引戸タイプの「ウッドシャター」は、日本の住宅のために開発されました。羽根の幅を狭くして、建具枠に収まるよう工夫。パーティションにも適しています。



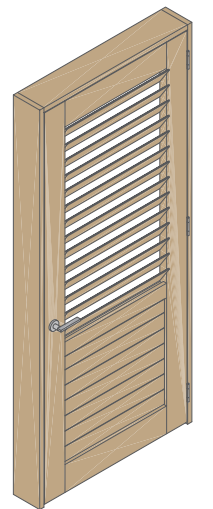
開戸タイプ

定番の開戸タイプは、サッシの内窓や部屋の開口部、収納の扉など、さまざまなシーンで活躍。両開式と片開式があります。



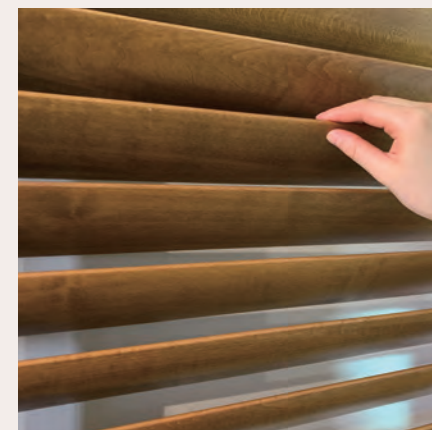
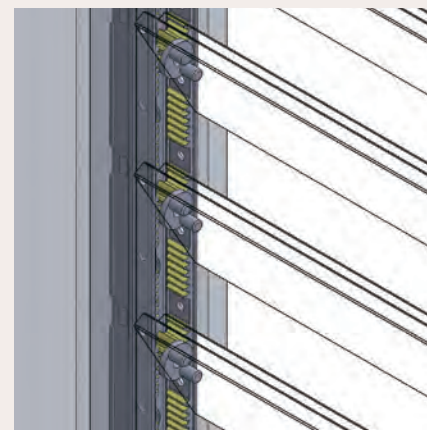
折戸タイプ

部屋を仕切るパーティションに適した折戸タイプ。サッシの内窓やクローゼットの扉にも使われます。全面開口できるフリー折戸もあります。



ドアタイプ

室内ドアと同様に使えるドアタイプ。部屋の出入り口や玄関土間と廊下の仕切りなどに適しています。羽根を開けることで、通風を確保できます。



指先だけで羽根を動かせる ルーバーチルト駆動機構RP26 (Patented)

羽根（ルーバー）をチルト（回転）させる駆動システムで、全てのウッドシャターに標準装備されています。一枚の羽根を指先で開閉すると、全てのルーバーがスムーズに連動する世界で唯一のナニックジャパンオリジナルの駆動機構です。従来のチルト棒による駆動方式よりも連動精度が高く、チルト棒が無くなったことで引戸に収めやすくなりました。

国内工場で、注文に合わせて 一貫生産、アフターメンテナンスも安心

ナニックのウッドシャターやウッドブラインドは、埼玉県戸田工場にて、全て国内生産されています。羽根の加工、塗装、組み立てなどを一貫して行うことで、世界最高レベルの品質を保ち、サイズや色、建具枠の仕様など、1点ごと注文に合わせて製作。設置後のメンテナンスも、安心しておまかせ頂けます。ウッドシャターの羽根（ルーバー）の形状・幅は7種類、選べる色は73色、最大製作可能寸法は幅900×高さ3000mm。電動ルーバータイプもあります。

